

総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）

令和 5 年度 総括研究報告書

回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究

研究代表者 宮本 享 京都大学医学部附属病院脳卒中療養支援センター長

研究要旨

日本循環器学会及び日本脳卒中学会と連携し、脳卒中と心臓病の SWG（サブワーキンググループ）に分かれて、脳卒中・心臓病等総合支援センター事業の採択府県を対象として、回復期以降の循環器病に対する患者支援体制の現状調査を行い、上記の研究で抽出された課題の原因を調査した。

A. 研究目的

日本循環器学会及び日本脳卒中学会と連携し、回復期以降の循環器病に対する患者支援体制の現状調査を行い、上記の研究で抽出された課題の原因を調査し、多職種・多機関の連携による支援体制を充実させるための手法を提案することを目的とする。

B. 研究方法

心臓病 SWG において令和 5 年度に実施した調査研究の方法は以下の通りである。

詳細は

別添 4 に記載した。

- ① 慢性心不全看護認定看護師や心不全療養指導士を対象とした調査
- ② 相談支援窓口に従事する多職種スタッフへの調査
- ③ 脳卒中・心臓病等総合支援センター事業

採択府県における循環器相談支援部門の支援体制の調査

脳卒中 SWG においては、令和 5 年度に、岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県の 7 府県において、ほぼすべての急性期・回復期リハビリテーション病院から直接自宅退院した 69 歳以下の急性期脳卒中発病前に就労していた患者を対象として、両立支援に関する調査を施行した。

C. 研究結果

心臓病 SWG による慢性心不全看護認定看護師や心不全療養指導士を対象とした調査では、相談支援の対象となった疾患は心不全、虚血性心疾患、弁膜症、頻脈性不整脈が上位を占めた。循環器病の患者・家族への相談支援における多職種連携について 27% が意見を出し合う場面が十分でない、30% が合意形成が十分に行われていないと回答した。また、相談支援窓口に従事する多職種スタッフへの調査では、相談支援のニーズが高い疾患として、心不全、心筋症、虚血性心疾患が挙げられた。詳細は別添 4 に記載した。

脳卒中 SWG による 7 府県調査では、岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県の 7 府県において、直接自宅退院した 69 歳以下の急性期脳卒中発病前

に就労していた患者は 1640 名であることが判明した。この 7 府県で、日本脳卒中学会の一次脳卒中センター年次報告データによると令和 4 年に発生した急性期脳卒中は 38786 名であるため、両立支援の潜在的な対象者は急性期脳卒中患者の約 8.5%であることが、悉皆性のある調査により判明した。

D. 考察

心臓病 SWG による調査について詳細は別添 4 に記載した。相談支援における多職種連携の重要性は認識されているものの、意見交換や合意形成の不十分さが課題であることが判明した。また、対応が困難と感じる内容として挙げられた緩和ケア、予後、不安・精神的苦痛については、他の専門職との連携を強化する必要がある。地域連携において対応が困難とされた内容については、総合支援センターと各医療機関との連携による対応が一層求められる。回復期以降の具体的な支援内容として医療福祉相談や復職・就職支援が挙げられ、社会福祉士が回復期以降の相談支援において重要な役割を担っていることが示唆されることから、回復期以降の循環器疾患患者の相談支援における社会福祉士の役割の実態と課題を明らかにすることが望まれる。

脳卒中 SWG における調査では、岩手県・宮城県・栃木県・富山県・京都府・福岡県・熊本県の 7 府県において令和 5 年度下半期に発生したほぼすべての急性期脳卒中症例が対象とされ、その中で両立支援の潜在的な対象者（すなわち、発病前に就労している 69 歳以下で自宅に復帰できた脳卒中患者）は 8.5%であることが示された。この限られた対象に対して有効に仕事と治療の両立支援をおこなっていく対策を今後検討する必

要がある。令和 6 年度には、本調査と同様の手法で、脳卒中・心臓病等総合支援センター事業採択府県において、どのような就労支援リハビリテーションが、どのような職種によって、いつの時期に行われているかの調査が行われる予定であり、適切な両立支援の展開について検討が行われる見込みである。

E. 結論

調査研究の結果から、多職種・多機関連携による循環器病の相談支援の現状を明らかにした。引き続き調査研究を実施し、回復期以降の適切な相談支援に必要な体制・要件を整理することが求められる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし。

2. 学会発表

・眞茅みゆき，循環器病を有する患者および家族に対する療養上の相談支援に関する実態調査. 第 88 回日本循環器学会学術集会. 2024 年 3 月 10 日. 兵庫県神戸市.

・宮本 享，多職種地域連携のハブとなる脳卒中・心臓病等総合支援センター. 第 47 回日本脳卒中学会学術集会. 2024 年 3 月 8 日. 神奈川県横浜市.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）該当なし